

「市長とドンドン語ろう！ 防災版」における意見について

事業者の役割について		
	中央区（黒髪）	・事業所にも声掛けして、子どもたちの登校の見守りをきっかけに事業者と地域のつながりができたので、それを地域の防災にもつなげていけたらと思う。
	南区（飽田西）	・熊本地震の際、バス会社が車庫を避難所とし、高速バスを開放してくれた。他のバス会社とはこのような協定があるのか。同様に企業と市の連携はあるか。
	南区（田迎）	・地域と事業者で協定を結んでいる。
地域の防災組織の役割について		
	東区（秋津）	・地域で災害時に取り組むべき事項をリスト化し、災害に備えている。
	中央区（向山）	・向こう三軒両隣、共助が大事。自主防災クラブに力をいれてほしい。
	中央区（向山）	・共助を生かすために日頃からの訓練が必要である。
	中央区（碩台）	・避難所運営委員会も発足したが、これを今後どう動かしていくかというところであり、まだ盛り上がり欠けている。
	南区（田迎）	・熊本地震時に安否確認で苦労した。コロナで各訓練もできていないので、訓練を実施して、防災クラブが機能するか確認する必要がある。
	北区（山東）	・防災士が区にどのくらいいるかわからない。防災士同士の連携が必要である。
	西区（池田）	・自主防災クラブの連絡協議会を設置してはどうかと検討している。
市の役割について		
	中央区（城東）	・まちなかの防災を住民対応だけで考えるのは難しい。まちなか最大の事業所である市役所などの事業所の関わりを条例にも盛り込んで欲しい。
	南区（隈庄）ほか	・避難所にスロープや多目的トイレが無いため整備して欲しい。
	西区（白坪）	・地震の際はトイレの水が流せない。大きな公園でトイレがあるところには、防災井戸を設置してはどうか。
	西区（白坪）	・町内・自治会の中で、災害時ゴミも地域が協力できるよう考えたい。
避難所の運営について		
	東区（健軍東）	・熊本地震を経験した職員が少なくなっている現状においては、当時を知っている校区防災連絡会と市が連携を深めていくことが重要である。
	東区（長嶺）	・風化防止のためにも防災の日の制定や、それに合わせた防災訓練の実施等を行政に後押ししてもらいたい。経験が少ない町内会長も多いことから、訓練等を機会とした人とのつながりや、各種団体との連携が重要である。
	東区（若葉）	・避難所運営マニュアルや編成表により、役割分担を明確にすることが重要である。
	中央区（春竹）	・早期避難を呼びかけているのはいいことだが、避難者は今後増えてくると思う。避難所のキャパシティも限界があるため避難所のあり方を検討してほしい。
	中央区（城東）	・避難所のキャパシティはどのようにして計算し想定しているのか。
	南区（富合）	・避難所運営委員等を定めても毎年委員が変わり、また担い手も不足している。
	南区（中緑）	・コロナ前に考えていた避難所の定員も、ソーシャルディスタンスで思うように入れられないのではないか。
	北区（山本）	・区単位の訓練を行ってほしい。
	北区（武蔵）	・市の避難所担当職員が1～2年で入れ替わってしまうため、少なくとも3年は固定してほしい。
	北区（麻生田）	・夜間発災を想定した防災訓練の実施も必要。
	北区（城北）	・訓練の成果を共有する場を設けてほしい。または、HPで動画等をアップして共有するなど。
	西区（松尾東）	・令和2年台風10号の際、避難所をたらいまわしにされた。避難所の対応に課題があった。

避難行動要支援者について		
	東区（西原）	・校区防災連絡会として避難行動要支援者の避難支援ができればと考えているが、個人情報保護の観点から、要支援者の情報を入手できない。
	東区（託麻東）	・障がいの種類によっては、民生委員など日頃のつながりがない方が支援を行うことで、かえってパニックを起こす可能性がある。
	東区（託麻北）	・災害時等に避難支援を行うのは、隣近所だと考えている。災害時に支援を必要とする方の情報は、市が確実に把握し、隣近所に共有して欲しい。
	中央区（碩台）	・避難行動要支援者は、本人の申し出で申請する形となっており、もう少しやり方を変えられないかと思っている。
	中央区（春竹）	・要援護者の名簿は校区防災連絡会や避難所運営委員会にはもらえない。
	中央区（黒髪）	・社会福祉協議会と民生委員が協力して、できるところから民生委員と自治会長が個別の避難計画を作っていくこととしている。
	南区（隈庄）	・昔は自治会長が要支援者リストを持っていたが、個人情報の管理が厳しくなり、今は要支援者がどこにいるかわかっていない。また、支援を拒否している人をどうするかも問題。
	南区（川尻）	・民生委員の役割は大きいが、1人に対応は厳しいので、民生委員にサポートを付けるようにした。今後はサポート体制が重要になる。
	南区（飽田東）	・2年前に要支援者について隣保組で調査し、地域で共有している。
	北区（田原）	・要支援者名簿を自分たちで作ったら現在市からもらっている名簿の20倍になった。公民館に備え付けて共有することに住民は賛成だった。
	西区（池田）	・災害時要援護者について、運用が難しいと感じる。
正確な情報の発信等について		
	南区（川尻）	・R2年の台風10号の際に、区より避難勧告等の資料をもらった。各町内が危機感を持ち、住民にも配り役に立ったので、このようなアナログ的な情報伝達も続けてほしい。
	南区（杉上）ほか	・防災無線や緊急告知ラジオが聞こえないので、避難指示等はどのように確認するのか。代替手段を検討してもらいたい。
	西区（小島）	・令和2年台風10号の避難所開設の際、高潮で最寄りの避難所が開設できず、西部公民館などに避難者が集中した。対応の検討が必要である。
復旧及び復興について		
	中央区（一新）	・新町、古町は公費解体で4割近い町屋がなくなった。まだ100件ほど町家が残っているので、今後ぜひ残して欲しい。
防災教育について		
	東区（託麻北）	・防災マニュアルを作成し啓発に取り組んでいるが、地域で防災意識を持続させることが課題である。
	東区（秋津）	・災害時等に活躍できる人材の発掘に取り組んでいる。
	中央区（城東）	・地域にいる防災士の活用など、地域が防災教育に関わっていく必要ある。
	中央区（出水南）	・中学生が避難所運営に自主的・積極的に手伝ってくれた。市内の多くの学校でそうだったようで、いざという時は助け合う風土が育っていると感じる。
	中央区（出水南）	・防災士も活用し、児童生徒に自分たちで考えさせるような防災教育を実施するべき。
	西区（春日）	・まちづくりセンターの協力のもと、「我が家の防災シート」を作成し、全戸配布している。毎年作成して、意識づけをやっている。
防災の日について		
	東区（若葉）	・地震の記憶が薄れているため、4月の第3土曜を「校区防災の日」と決めた。
	北区（武蔵）	・記憶の風化が進んでいるため、県では追悼式典を行っているが、セレモニーのような市民の記憶に残るものがあるといい。